

# ☆天文の基礎知識 — 月の形と「月齢」について —

夜、星空を観察したり写真を撮るとき、月の明るさが大きく影響します。そのため、星空の観察会などを計画するときなどには、前もって、その日の月の明るさがどの程度か調べておく必要があるのです。この「星空情報」にも毎日の月の形と、それに関係が深い月齢をのせています。

月は地球の周りを回りながら、いつも約29日半かけて1回満ち欠けしています。そして、全部欠けた新月の時からある時までの日数を「月齢」と言って、0から29.5くらいまでの数字で表します。

そのようにすると、明るく光っている部分の大きさと月齢との関係はほぼ一定になります。(●→月齢0、○→月齢約3、◐→月齢約7、◑→月齢約15、◒→月齢約23、◓→月齢約26)

そのため、ある時の月齢が前もって分かれば、その時、月の光っている部分の形をだいたい想像できるので、新聞やカレンダーなどにも毎日午後9時の月齢を載せているものが多いです。

例えば、この「星空情報」の1枚目の表に、今月1日午後9時の月齢が9.8と書かれています。これは、先月(5月)23日の午前2時39分に新月(●)になったので、それから今月1日の午後9時までに約9.8日たったということを表し、それによって月の形はだいたい◐だろうということが分かります。

また、月は今月21日の午後3時41分に再び全部欠けて新月になり、その時からその日の午後9時(21時)までには約5時間19分(19分は0.32時間)たっているのです。その「時間」を「日」に直し(5.32時間÷24時間=0.22)、0.22を四捨五入して、1枚目の表には21日午後9時の月齢が0.2と書かれています。

## ★親子で星空さんぽ

＝天に上げられ星座になった親子ぐま＝

### 《おおぐま座・こぐま座》

大神ゼウスの愛を受けたよう精カリストは、男の子アルカスを産みました。カリストの主人の女神アルテミスがそれを知りおこってカリストにのろいの言葉をかけ、熊のすがたに変えてしまいました。そのためカリストは、森の奥ににげこんで暮らさなければならなくなったのです。

15年が過ぎアルカスははりっぱな狩人に成長していました。ある時、森で狩りをしていると、すばらしい大熊に出会いました。この熊こそ母親カリストの変わりかはてた姿だったのです。カリストはなつかしさのあまり思わず走りよりましたが、アルカスには熊がおそいかかって来るようにしか見えません。すぐさま弓でいようとしました。このようすを天から見ていた大神ゼウスは、二人をあわれみアルカスも熊に変えつむじ風を送って天に上げ、「おおぐま・こぐま」の星座にしたと伝えられています。

北斗七星は、おおぐまのこしからしっぽの部分で星座の名前ではありません。また、こぐま座のしっぽの先には、北をしめす星として有名な2等星の「北極星」があります。

